

医学部改革に臨んで

琉球大学大学院医学研究科分子・細胞生理学講座 教授 松下 正之



琉球大学医学部医学科同窓会の皆様には、日頃から医学科を支援して頂き誠にありがとうございます。平成25年4月1日付で医学部長に就任しましたが、

医学部の現状と課題について述べさせていただきます。

医学科については、医学の進歩やグローバル化に対応した学部教育の改革を進めています。アメリカで臨床研修を行うためのECFMGに対応した医学教育の質保障のためのグローバル認証が全国の医学科で数年のうちに始まります。このグローバル認証では、医行為などを含む臨床実習の質の充実と期間の延長、そして、アウトカムベースの評価など大きな改革を行わなければなりません。また、基礎医学教育においても臨床を見据え、講義中心の授業からPBLやTBLを基本とした自主的学習に向けた改革が求められています。既に琉球大学でも、昨年度よりカリキュラムの改革を進めています。1年次より医学に触れさせるためのシミュレーション教育を取り入れ、さらに基礎専門医学を1年次の後期に移動しました。また、TBLやPBLの導入を試みています。これらの改革に対応しながら、国家試験合格率の向上のために、医学教育企画室の充実に取り組んで行きたいと考えています。

大学院医学研究科ですが、沖縄の健康長寿、亜

熱帯特有の疾患、沖縄の社会医学や疫学研究、再生・再建などのプロジェクトに基づいた大学院教育指導体制の確立を目指した大学院改組への取り組みが進行中です。大学院改組により、先端的特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上、国際貢献等を目指すとともに、次代を担う人材の育成を目指しています。特に、同窓会の皆様からの要望にもありますが、リサーチマインドを持った臨床医や大学院医学研究科の指導者の育成は急務であり、研究科長として改組により魅力的な大学院にしたいと考えています。

医学部附属病院につきましては、病院長を中心に病院再整備など、将来の医学部を左右する事業計画が進行しています。この西原の丘の上に沖縄県民の健康福祉のシンボルとなるような病院を構想し、次代の医療や研究・教育の要となる病院建設を期待しています。

全国の医学部を取り巻く環境は大きく変化していますが、琉球大学医学部は、東アジアの中心に位置し、南に開かれた地政学的要因、個性豊かな教職員、優れた学生・卒業生などにより発展の余地、潜在能力は高いと考えています。琉球大学医学部医学科、大学院、附属病院が、沖縄の最高学府として医療と知の中心となり、世界に向け情報発信できるよう取り組みますので同窓会の皆様のご協力ご支援をお願い致します。最後に、同窓会の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念します。